

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 3月15日

事業所名 olive

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	78%	22%	・外玄関を広くとり、活動の場として活用しています。 ・個別指導の際に、集中して取り組める環境設定をしています。 ・ロッカーやイスなど配置換えをし、活動スペースの確保に努めています。	・療育備品の保管場所について、改善が必要。 ・安全確保を優先に、保管場所や保管方法など話し合い改善し最適化していきます。
	2 職員の配置数は適切である	100%		・必要に応じ個別に対応しています。	・利用者が安心して過ごせるように、小集団の中でも状況に応じ個別対応しています。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	89%	11%	・写真・絵カードの活用。 ・段差を無くし、視界から入る情報を極力少なく行なっている	・本人に分かりやすいような情報ツールや環境設定について協議し支援へ繋げていきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	89%	11%		・活動の場の清潔保持 ・適宜に消毒液を使用し清潔な状態を保てるようにします。 ・白板下に配置しているテーブルに児童が登ってしまう。 ・保管場所や児童への認識してもらう方法を話し合い最適化していきます。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%		・コロナ禍で急な対応も迫られる中、連携し個々の様子を見ながら支援する事を心掛けています。 ・連絡ノートの活用と伝え合う意識をもって職員間はコミュニケーションを取っています。	・共有出来ていない職員もいる為、共有方法も検討し、職員間の連絡ノート活用していきます。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%		・管理者へ報告している。	・業務改善へ反映できるように話し合い最適化していきます。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	89%	11%		・話し合った内容はホームページで公表されることまで周知していきます。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	56%	44%		・第三者評価の手順や方法など、他事業所と連携協力し体制作りの話し合いを実施します。 ・第三者評価実施し業務改善に役立てていきます。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%			
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%		・ニーズと本人の状況を見ながら、目標や支援の方向性を設定しています。	
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%			
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	89%	11%		・子どもニーズや支援内容について話し合い、支援計画内容の共通理解をしていきます。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	89%	11%		・支援者の様々な視点からのプログラム立案をチームとして話し合い共有していきます。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%			
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%		・管理者の指示により個別対応をしている。	・支援計画内容と書類の保管場所の共通理解をしていきます。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	78%	22%		・具体的な役割分担など行っていきます。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	78%	22%	・気になった点を管理者に報告している。	・気になった点など、振り返り共有を出来る時間を確保していきます。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%		・過去にあった出来事と当日あった出来事を職員に聞き参考にしている。相談しながら試行錯誤している。改善も多くなる。	・情報共有の方法を話し合い最適化していきます。
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%				

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 3月15日

事業所名 olive

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%			
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	78%	22%		・利用者さんとの関係機関との連携・協力体制は継続して取り組む。 ・行政機関との連携は無いため、連携の流れがあるのか等を確認していきたい。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	100%		・個別に対応。	
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	78%	22%		・必要に応じて医療機関との連携を図っています。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%			
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	89%	11%		・支援内容の情報提供や学校からの情報収集も合わせて行い支援へ繋げられるようにしています。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	89%	11%		・研修内容を共有できるように検討していきます。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	11%	89%		・コロナ禍であり、今後の取り組み課題となっています。実現できる形を検討していきます。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		100%		・開催予定があれば参加します。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%			
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	78%	22%	・研修の案内など情報発信をしています。	・資料提供や参考動画の紹介などの情報発信を行っていきます。
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%			
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%			
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%		・保護者から聞き出し、児童へ促しています。	
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	22%	78%		・コロナ禍であり開催できず。今後の取り組み課題となりお話し合い屋外など年に1~2回実現できる形を検討していきます。
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%		・管理者へ報告し共有、相談窓口を統一しています。	・相談窓口を一本化し、職員間で情報共有し迅速に対応出来るよう体制を整えています。
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	89%	11%		・活動の様子なども発信が出来るようにツールの検討をしています。
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	89%	11%		・個人情報の取り扱いに関し話し合い共通理解を図り厳守していきます。
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%			
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	11%	89%		・地域との繋がり方を検討していきます。
	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%			
非常時等の対応	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%		・活動として定期に行っています。	
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	89%	11%	・保護者から聞き取り、基本情報(アセスメントシート)を活用しています。	・職員間での共有は確認が必要。 ・状況が分かりやすく確認が出来る方法を話し合い情報の共有を実施していきます。
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	67%	33%		・管理体制や緊急時対応を情報共有していきます。
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	89%	11%	・口答と連絡帳記載、文書制作にて情報共有している。	・事例集の保管場所が共有されていないため、書式と保管場所の共有をしています。
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%		・研修会を実施しています。	
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	89%	11%		・事例を挙げ、保護者の対応なども合わせ話し合っ検討します。 ・支援計画への記載は保護者へ確認していきます。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。